「最高の先生」

学校長　笠　原　　究

着任してから2か月余りが過ぎました。主に大学の授業がない月曜日と水曜日に附属小に顔を出しています。先日，一人の子供から「校長先生の仕事って何ですか」と尋ねられたので，「うーん，挨拶することと，ぶらぶら歩いていることかな」と答えました。「そんなことだったら，わたしにもできるよ！」と笑われてしまいましたが，実際に私が附属小でしているのは，挨拶を除けば，ぶらぶら校内を歩いて授業を参観させてもらったり，休み時間に子供たちと遊んだりすることなのです。大学から派遣された校長なので，その点では他の学校の校長先生とかなり違っているのかもしれません。

子供たちは，授業においても遊びにおいても実に活発で，生き生きと毎日を過ごしています。この元気の源は，もちろんそれぞれの御家庭で育まれてきたものであろうと思います。それに加えて，附属小の先生方の質の高い授業が，子供たちの知的好奇心を刺激し，探究心を高めていることは間違いありません。この2か月，「主体的・対話的で深い学び」により子供たちの「思考力・判断力・表現力等」を伸ばそうとしている場面に何度も遭遇してきました。まずは先生方の発問のすばらしさに感銘を受けています。授業の核心を突くよく練られた問いを，絶妙のタイミングで投げ掛けています。すぐに答えを与えず，個人で考える時間や他の子供と話し合う時間を設け，考えるプロセスを大事にしています。様々な意見を子供から引き出すことで，

判断をさせ，よりよく表現させることに努めています。ICT 端末を活用して，個に応じた学びの時間を提供していることもよく分かりました。低学年から自ら学ぶ姿勢を大切にすることで，学年が上がるにつれて次第に論理的に自分の考えを述べられるようになっていきます。日々の質の高い授業が，この成長を支えていることがよく理解できました。

米国の著作家，ウイリアム・A・ウォードが，教師を評した言葉に次のようなものがあります。

“A mediocre teacher tells.”「平凡な先生は教え込む」

“A good teacher explains.” 「良い先生は説明する」

“A superior teacher demonstrates.”「優れた先生はやってみせる」

“An excellent teacher inspires.”「最高の先生は心に火をつける」

つまり最高の先生とは，子供たちをやる気にさせる先生ということです。英語の inspire における spire とは「神の息」という意味で，in は「吹き込む」ということですね。西洋では人が何

かを創作するとき，その着想は神から送られて来て，人間がそれを形にすると信じられています。では，どういう先生が子供たちを inspire するのでしょう。答えは人それぞれかと思いますが，私の頭に浮かぶのは，「学びを楽しんでいる先生」です。附属小の先生方は，授業でも研修でも，真剣にかつユーモアを忘れずに学びを楽しんでいます。それぞれのやり方で，附属小の先生方はこれからも子供たちの心に火を着けてくれることでしょう。